

3. 2017 年度活動概要

2017 年度、関西支部 ESP 研究会では、4 回の定例研究会を実施すると共に、支部講演会でのシンポジウムを主催しました。

第 1 回研究会は、工学系大学の日本人英語学習者への語彙指導について、ESP 教育の観点から石川有香先生（名古屋工業大学）にご講演をいただきました。また James Horvat 先生（近畿大学）の研究報告では CEFR に基づいたスピーキング演習について ESP の立場からの提案がありました。

第 2 回研究会は、近畿大学の武知薫子先生と鈴木義孝先生のワークショップで、オランダ語で医療表現を学習することを通じて、学習者あるいは教員として得られる気づきを参加者間で共有しました。また、大阪市立大学の Liz Leigh 先生のご発表では、環境問題をテーマに、この問題を ESP 授業で扱う上での課題について討議しました。

10 月の関西支部講演会では「理系 ESP の教材開発と活用」と題するシンポジウムを主催し、多くの皆様にご参加いただきました。3 名のシンポジスト Robert Perkins 先生（京都府立医科大学）、石川有香先生（名古屋工業大学）、服部圭子先生（近畿大学）に、それぞれのカリキュラムに基づいた実践をご報告いただきました。

第 3 回研究会は、成田修司先生（大阪大学・非）より、ドイツの大学が多くの専門家を国外から招いて行っている国際プログラムについてご紹介いただき、参加者から活発な意見や質問が寄せられました。さらに、村木美紀子先生（摂南大学/関西大学・非）からは薬学英语について、実務経験に基づく有益な情報を提供いただきました。ジャーナルクラブは、藤枝美穂先生（大阪医科大学）のご発表により、ジャンルに基づいたライティング指導の効果検証に関する論文を読みました。

最後の研究会は神戸学院大学の野口ジュディー先生と大阪工業大学の深山晶子先生に、「ESP をめぐって」と題し、談話形式でお話いただきました。ESP の黎明期からこの分野を牽引されてきたお二人の、息の合ったトークはたいへん刺激に溢れるものでした。

来年度も今年度同様、研究会内外の先生方による実践、研究報告を中心に、ジャーナルクラブによる最新の研究動向の共有も引き続き続けていきたいと思っております。